

出来る限り、以下の様式に沿った議事録を作成下さいますようお願いいたします。

(様式 2)

議事録番号

提出 2026 年 2 月 17 日

## 会合議事録

研究会名：固液界面研究会

日 時：2025 年 9 月 4 日 10:30-12:00

場 所：東北大学 青葉山 commons 2F 講義室 9

出席者：(議事録記載者に下線) 池永 英司, 水上 雅史, 隅谷和嗣, 若林 裕助 他  
計 12 名

議題：最近の固液界面研究の進展について

10:30 はじめに 若林 裕助 (東北大)

10:40 招待講演 1 池永 英司 (Phosic)

硬 X 線光電子分光を用いた固-液界面現象の電子状態観測

11:10 招待講演 2 水上 雅史 (東北大 SRIS)

表面力測定と放射光 X 線回折による閉じ込め液体の特性と構造の解明

11:40 総合討論

議事内容：

まず、研究会代表の若林より、SPRUC から SpRUC への組織変更、SPring-8 ブラックアウトに関するアナウンスを行った。

Phosic 池永氏より、HAXPES によるピンポイント、オペランド計測に関する研究紹介があった。液体の価電子を見る測定では、メンブレンを通した測定を行う。そのメンブレンに穴が開くのが最大の実験上の困難であった。その対策として、液を止めずに流すこと、導電性を持たせてチャージアップを防ぐことその他、メンブレン自体のメーカーによる品質の差も問題であったことなどの技術的な紹介を丁寧にしていただいた後、金属ナノ粒子の測定結果に関する紹介があった。

東北大 SRIS 水上氏からは、雲母の間に潤滑剤として液体を挟んだ構造を形成し、その界面構造と潤滑性の関連を調べる計測について紹介があった。関連して、超微量試料で粘度が計測できる装置の紹介もなされた。雲母の間隙が数ナノメ

ートルまで狭くなると、液体の粘度が急に変わる場合がある。その粘度測定と構造の関係について報告があった。

総合討論では、第八期研究会の申請について、次期代表/副代表の人選について、現代表に一任する事が合意された。また、SPring-8 ブラックアウト期間の対応について議論があった。